

製品名: Akt2 (リン酸化 Ser474) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04219**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	AKT2
別名	AKT2; RAC-beta serine/threonine-protein kinase; Protein kinase Akt-2; Protein kinase B beta; PKB beta; RAC-PK-beta
遺伝子 ID	208.0
SwissProt ID	P31751
免疫原	抗血清は、Ser474 のリン酸化部位周辺のヒト Akt2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 432-481

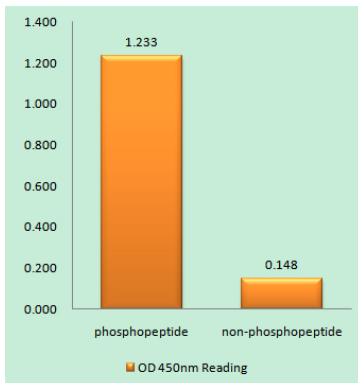
背景

この遺伝子は、SH2 様 (Src ホモロジー 2 様) ドメインを含むセリン / スレオニンキナーゼのサブファミリーに属するタンパク質をコードする推定癌遺伝子です。この遺伝子は、8つの卵巣癌細胞株のうち2つと、15の原発性卵巣腫瘍のうち2つで増幅および過剰発現することが示されました。過剰発現は、ヒトの膵管癌のサブセットにおいて悪性表現型に寄与します。コードされているタンパク質は、いくつかの既知のタンパク質をリン酸化することができる汎用的なタンパク質キナーゼです。 [RefSeq 提供、2008年7月], 触媒活性: $ATP + \text{タンパク質} = ADP + \text{リン酸化タンパク質}$ 。 ,疾患: AKT2 の変異は、卵巣癌の発症に寄与している可能性があります。 ,酵素調節: キナーゼドメイン (Thr-309) と C 末端調節領域 (Ser-474) の2つの特定の部位が、完全に活性化されるためにリン酸化される必要があります。 ,機能: いくつかの既知のタンパク質をリン酸化できる汎用タンパク質キナーゼ。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 RAC サブファミリー。 ,類似性:1つの AGC キナーゼ C 末端ドメインを含みます。 ,類似性:1つの PH ドメインを含みます。 ,類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,サブユニット:MTCP1、TCL1A、TCL1B と (PH ドメインを介して) 相互作用します。 ,組織特異性:これまでに分析されたすべてのヒト細胞タイプで。 ,

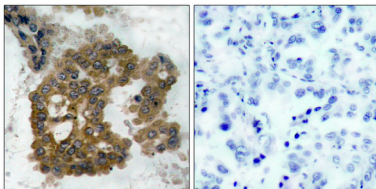
研究分野

微小管調節; 幹細胞経路; T 細胞受容体; 血管新生制御; インスリン受容体; Toll 様; ErbB/HER; AMPK; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; B 細胞抗原; 接着結合; PI3K/Akt; mTOR

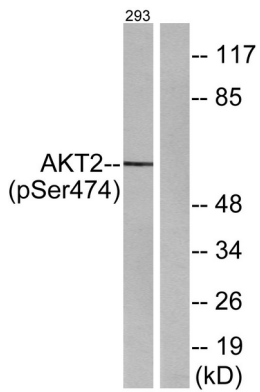
画像データ



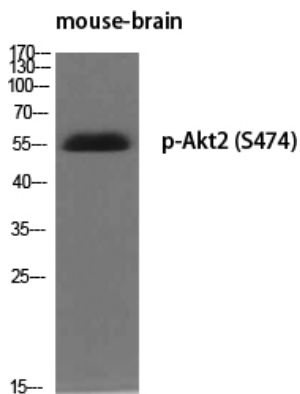
Akt2 (リン酸化 Ser474) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



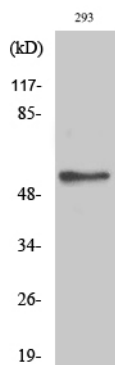
Akt2 (リン酸化 Ser474) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30分処理した293細胞ライセートのAkt2（リン酸化Ser474）抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化Akt2（S474）ポリクローナル抗体（1：500希釈）を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



1：500希釈のPhospho-Akt2（S474）ポリクローナル抗体を用いた293細胞のウェスタンブロット解析